



2005

VOL.33
NO.2 (通巻90号)

ART NEWS 千葉県立美術館

開館30周年記念企画展

「渡辺學の世界」を振り返って

前号でもお伝えしましたが、昭和49年に開館しました当館も、お蔭様で平成16年度に開館30周年を迎えることができ、年度当初の4月18日(日)には、入館者総数500万人に達して、開館30周年に花を添える形ともなりました。本年度から始まりました企画展等の入場有料化に伴い、展示室運営のリニューアル化を図り新たな状況下で各種事業を実施した年でもありました。この30周年の最後の締めくくりとして、これまでの実績の継承とその展開を踏まえる中で、30周年記念企画展「渡辺學の世界」を、平成16年11月27日(土)から平成17年1月23日(日)まで実施しました。

当館は、国内外の優れた美術家の調査研究は勿論ですが、一方で地域美術館としての役割、独自性を大切に、房総ゆかりの美術家についての調査研究や展覧会を行って館運営の大きな柱の一つにしています。これまでも年度の節目に房総に因む展覧会を行ってきていますが、丁度、開館30周年を迎えるに当たりまして、当館の調査研究の実績とその成果を示すものとして、今回は房総ゆかりの美術家として象徴的な存在とも言える日本画家渡辺學に焦点を当てることで当館活動の性格の一つをより浮き彫りにしたわけです。

渡辺學は、すでに御紹介しましたように、1916年(大正5)に銚子に生まれて2000年(平成12)に亡くなるまで、一貫して銚子に腰を据えて漁民の生活や人間模様を描いた現代日本画壇を代表する画家でした。

この展覧会では、御遺族をはじめ、作品所有者の方々の多大な御協力を得まして、渡辺學の学生時代から晩年に至るまでの代表的な作品を中心に70余点を集め、100号以上の大きな作品が多数並ぶ壮観な展示を構築しました。また作品だけでなく、渡辺學の制作背景を示すイーゼル・パレット・絵筆などのほか、さらには銚子の歴史や風土・文化を紹介したパネルや資料、物産等を展示しまして、渡辺學の芸術を育くんだその風土についても触れてもらえるようにしました。

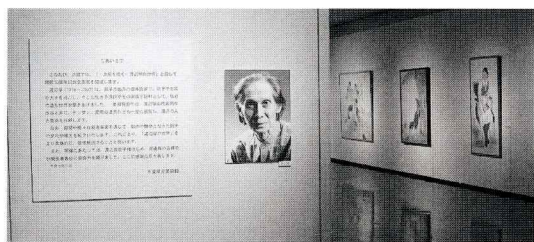
特に、展覧会の開催に当たりましては、特別協力として銚子市と銚子市教育委員会、後援にNHK千葉放送局と(株)パイエフエム、協賛に(株)三越千葉店が加わり運営が図られたことも特徴の一つでPR等有形無形に御助力をいただきました。とりわけ銚子市と銚子市教育委員会には、銚子関連の展示やイベントにも携わっていただき、地域とのコラボレーションが実現されたことは、大きな特色でありました。

展覧会の関連事業として、信濃デッサン館主の窪島誠一郎氏による「一郷土銚子に生きた画家一渡辺學の人と芸術」という演題の「美術講演会」、「草月・いけばなー『Umi』の表現ー」というテーマで、草月流有志による創作いけばなを館庭に展示、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉による「海と自然に寄せて」というテーマでの「ミュージアムコンサート」、銚子ちぢみ絵本家「大善」の方々によるワークショップ「銚子伝統体験・銚子ちぢみ藍染体験!」、銚子はね太鼓の実演をはじめ、銚子郷土研究家によるギャラリートークや食文化の体験コーナーなど銚子の方々によるスペシャル銚子デー「いっぺ!銚子“まるごと体感”」、銚子の歴史や風土、文化を展示紹介する「いっぺ!銚子ー銚子百選ー」、三越千葉店での「渡辺學デッサン展」等、展覧会を軸にしながら多数の人が参加し楽しんでいただけるような地域に密着した要素を盛り込みました。美術愛好家だけでなく、多様な人々の出会う空間が築かれたことも特筆すべきことと言えるでしょう。

展覧会を鑑賞された方々の声として、千葉県に住みながら渡辺學の存在を初めて知り、身近に素晴らしい画家がいたことへの感動を伝える人、千葉県の誇りであり、広く知らせるべきだという人、何度も見に来たという人、今後もこのような優れた地元作家の展覧会を望む人など、非常に良かったという感想がほとんどを占めました。

当館としても、房総ゆかりの美術家の調査研究の成果として銚子出身の渡辺學の存在とその優れた芸術を明らかにしたことに少なからず意義を感じています。こうした鑑賞者の声からも、改めて郷土の美術家の調査研究を地道に続けていくことの大切さを痛感する展覧会でもありました。

(副館長 藤川正司)



「渡辺學の世界」をふりかえって

「渡辺學の世界」は、42日間にわたって開催しました。期間中の総入場者数は、約7,000人、出品総数は、日本画62点、デッサン7点、絵本さし絵4点でした。このほかアトリエ再現には愛用のイーゼルや絵具、多様な道具類などを展示しました。渡辺の個展が最後に開催されたのは25年前のことで、それ以来の大規模な展覧会となったため、地元銚子市だけではなく、各方面からの来場者があり、また、図録の売り上げが好調だったことが特筆されます。

東京美術学校在学中の昭和13年に学内コンクールに出品した作品《しゅろ》から平成12年に第27回創画展に出品した絶筆《川口》まで年代を追って作品を配列しました。その結果、画学生時代、緑色の人物画時代、群青色の静物画時代、遺された者を描く時代、遭難者鎮魂の時代と呼べるような、画風がはっきりと分かれる渡辺の画業の変遷をたどることができ、渡辺學の世界が形成される過程を紹介することができました。また、愛用の道具類は、長年使用していたものばかりで、特にイーゼルは、渡辺が油彩画のように描いていたことを知ることができます。また、顔料のほかに、アクリル絵の具や油絵の具も使った痕跡があり、多様な表現技法を試みたことが偲ばれました。

この展覧会では、特に地域との連携を目的のひとつとして行いました。その主なものについては、普及事業の記事で紹介されていますが、サテライト展示として、平成17年1月18日(火)から24日(月)まで「渡辺學デッサン展」を、(株)三越千葉店の協賛を得て実施しました。これは、地域経済への「美術館効果」をねらって行ったもので、同店八階の特設会場に、渡辺學が残したデッサンや淡彩の作品から、12点を選びご紹介しました。

また、後援のNHKでは、新日曜美術館でこの展覧会の情報が放映されたのを始めニュース番組でも取り上げられ、千葉日報にはコラム『渡辺學の世界』が6回連載されたほか、各放送局、各新聞社や地域紙等に紹介されました。



企画展開連事業

「草月・いけばな『Umiの表現』」

展示期間：平成16年11月27日(土)～12月10日(金)

展示会場：千葉県立美術館野外芝生広場

美術館の広大な芝生広場を利用して、生け花の草月流有志(Umiの会)44名による野外展示会を開催。

渡辺學氏の展覧会にちなみ、「海」を共通にテーマにした8作品を制作。野外彫刻とも調和させながら、様々な植物を素材にし、生け花独自の造形美が味わえる関連展示となりました。

「いっぺ！銚子ー銚子百選」

展示期間：展覧会開催期間中

展示会場：千葉県立美術館第3展示室

企画展開催と同時に、銚子の文化・歴史・風土など、銚子に関する様々な魅力を紹介した展覧事業「いっぺ！銚子 銚子百選」を開催。銚子市の協力を得ながら、渡辺學の芸術を育んだ風土「銚子」を再考したいと考え実現しました。

21世紀に残したい銚子の自然・文化・歴史などあらゆるジャンルから選定された100件をパネル形式による写真や資料で紹介をしました。

銚子電鉄のレトロなプレートや昭和49年甲子園大会で優勝した銚子商業高校野球部に関する資料等の「実物展示」を含め、盛りだくさんの内容となりました。



銚子スペシャルデー

「いっぺ！銚子“まるごと体感”」

開催日：平成16年12月12日(日)

開催場所：千葉県立美術館野外芝生広場及び展示室

銚子をまるごと体感できるスペシャルイベントを開催。「銚子はね太鼓の生演奏」「マグロの解体ショー」「ぬれせん焼き体験」「銚子物産販売」など、当日の参加者は様々な銚子文化を堪能！雨模様の中、多くの家族連れで賑わいました。



「銚子伝統体験・銚子ちぢみ藍染体験！」

11月27日(土)に、銚子ちぢみ総本家株式会社「大善」さんを講師にお迎えして、銚子ちぢみの藍染体験を行いました。こどもの部と大人の部の2部構成で、62名の方々が参加されました。古くから銚子に伝わる伸び縮みするストレッチ素材の銚子ちぢみの歴史についてお話をうかがい、製作工程をわかりやすく紹介したビデオを視聴してから制作に入りました。はじめて『藍』を見た方がほとんどで、ちぢみがみるみると黄色から藍色に変色していく様を新鮮な感動と共に体験され、オリジナルのハンカチをうれしそうにお土産で持ち帰りました。



ミュージアムコンサート

開催日：12月4日(土) 14:00-15:30

開催場所：千葉県立美術館講堂

演奏：ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉

「海と自然に寄せて」というテーマをもとに、「世界の海と自然に寄せて」「日本の海と自然に寄せて」の二つのプログラムで演奏会を開催しました。

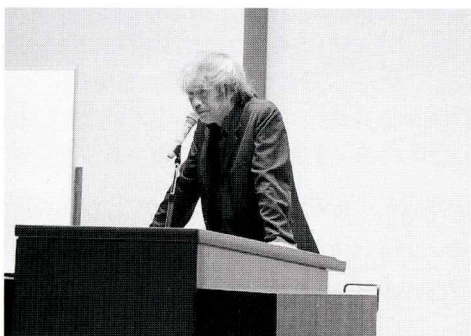
「エーゲ海の真珠」「我は海の子」「銚子大漁節」など、親しみやすい曲が演奏されました。

美術講演会

日時：12月18日(土) 14:00-15:30

演題：一郷土銚子に生きた画家―「渡辺學の人と芸術」

講師：信濃デッサン館館主 窪島誠一郎氏



アート・コレクション展

「光へのまなざし」

平成17年1月29日(土)～4月10日(日)

「房総と近代美術②」

平成17年1月29日(土)～3月31日(木)

「書之美」

平成17年1月29日(土)～3月27日(日)

我が国の書は、戦後めざましい発展をしました。特に、昭和23年の第4回日展に書が参加してから漢字をはじめとし、近代詩文書、前衛書など書の内容や形式が多岐にわたり、美の追究に重きが置かれるようになりました。

本展は、平成17年1月29日(土)から3月27日(日)の間、戦後房総書壇で活躍した人や、千葉県ゆかりの作家の作品を16点展示しています。以下に主な作品をご紹介します。

浅見喜舟の《崔子玉座右銘》は、楷書、行書、草書、隸書という異なる書体による漢字の連作です。本展では、四隻を一堂に展示しましたので、書体の違いがわかりいただけると思います。この作品の文章は、「人の短きをいうなかれ、己の長きを説くなかれ」で始まる戒めの言葉で、書のテキストの一つで、古くは弘法大師空海の作も断簡ですが伝わっています。今関脩竹《ふるさと》は仮名の作品で《桜井の訣別》の作詞者として知られる国文学者落合直文の「ふるさとの野寺の池は田となりてそのかたすみに蓮咲きにけり」という歌を書いたもので六曲屏風に仕立てられた大作です。中台邱園《盧綸詩》は、「東風雨を吹いて青山を過ぐ」という書き出しの唐は盧綸作の七言律詩を書いたものです。『唐詩選』に採られた詩は、長安の都に出て春の景色を眺めながら科学の試験に合格できないでいる自らの境遇を嘆いており、書風もこの意を受けてしっとりとした漢字の作品です。高宮金陵の《山部赤人歌》は、『続千載集』所載の長歌を新しい書法で書き、大石隆子の《待君》は、『万葉集』から二首を伝統的な書法で地紋のある料紙に書した対照的な仮名の作品です。白井市出身の小川瓦木の《古代人からのメッセージ8》は、作者のイメージを墨と筆で表現した作品で、文字というよりは絵画的な創作です。したがって、どう読むという決まりはありません。墨に顔料を混ぜて青っぽくしている点など、きわめて前衛的な書と言えるでしょう。千代倉桜舟の《玉沙の書》も前衛的な自詠の歌二首を書いた作品です。紺の紙面にタクラマカン砂漠の砂を膠で溶いたという珍しい素材で書いており、文字は金色に浮かび上がって見えます。

『アート・コレクション50』

本館では、昭和49年（1974）に開館して以来、コレクションの充実に努め、現在まで約2,200点の作品を収蔵いたしました。それらの作品は、日頃から常設展示などとおして紹介してまいりました。平成十六年度に開館30周年を迎えるにあたり、「房総と近代美術」という視点から選定した作品による『アートコレクション』展を、年間を通じて開催し、ご鑑賞いただいておりますが、多くの方々より展示作品の解説書がほしいとの要望が寄せられておりました。その声にお答えし、作品集を刊行いたしました。

この作品集は、展示することが比較的多い作品のなかから、1作家1点を基本に計50点を選びました。掲載作家としては、日本画では石井林響、富取風堂など9名、洋画は浅井忠、堀江正章など22名、この中にはミレーやフォンタネージなどの外国の作家も含まれています。版画は浜口陽三ほか3名。彫刻は高村光太郎ほか6名。工芸は、本館の特色ともなっている金工の香取秀真、津田信夫などを中心に七名を掲載し、書は3名の作品を紹介しています。1点ずつカラー図版を掲載し、館長や学芸職員が作品にまつわる由来やエピソードなどを含めながら解説を加え、『アートコレクション』展の鑑賞の為の手引書として編集しております。この本は、美術館情報資料室（図書室）でご覧いただけます。これを通じて、美術作品がより身近で親しみ深いものになることと思います。

募 集

ワークショップサポーター募集！

平成17年度開催予定のワークショップ（年4回）の準備や運営のサポート活動をしてくださる県内在住の大学生を10人程度募集します。

【応募期間】

3月末日まで募集します。なお、定員になり次第、募集は終了させていただきます。

【応募方法】

電話連絡の上、所定の申込書を提出してください。（千葉県立美術館普及課TEL043-242-8311 受付時間9:00～16:30）

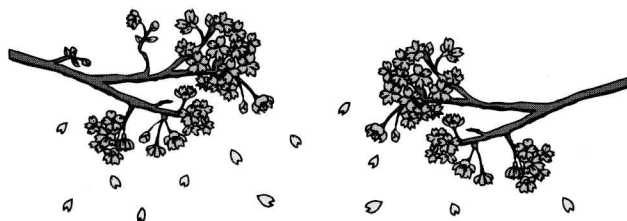
【任期】

平成17年4月1日～平成18年3月31日

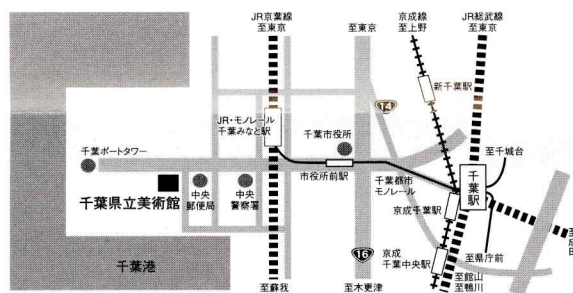
美術館講座

美術館の社会的な役割や学芸員の仕事の習得を通して、美術文化に対する関心を高め、生涯にわたって美術を愛好する心を醸成するため、昨年度より千葉県立八街高等学校との連携を図り「美術館講座」を開講しています。

この講座は、八街高等学校総合学科の教科科目の拡充を図るため、年間を通して「授業単位」を取得できる画期的な博学連携事業です。1年間の集大成として「美術館講座」受講生が、この1月に本館収蔵作品よりセレクトした展覧会、題して『～高校生が見る時代～展 Look for young age』を開催しました。また、展覧会期間中に受講生によるギャラリートークを行い、大変好評を得ました。



交通



JR京葉線・千葉都市モノレール 「千葉みなと駅」下車徒歩8分
JR総武線 「千葉駅」下車東口12番バスのりばから「千葉ポートタワー」行「県立美術館・中央郵便局」下車徒歩1分
〈東京方面から〉東関東自動車道「湾岸習志野」I.Cから約20分
〈成田方面から〉東関東自動車道「千葉北」I.Cから約25分

〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1

電話 043-242-8311

<http://www.chiba-muse.or.jp/ART/>